

論文番号 116

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名(原題/訳)

The effect of a moderate level of white wine consumption on the hypothalamic-pituitary-adrenal axis before and after a meal

食事前食後の白ワインの適度な飲酒が視床下部-下垂体-アドレナリン系に及ぼす効果

執筆者

Kokavec A, Crowe SF.

掲載誌(番号又は発行年月日)

Pharmacol Biochem Behav 70(2-3):243-50, 2001

キーワード

アルコール、白ワイン、栄養状態、視床下部-下垂体-アドレナリン系、コルチゾール、デハイドロエピアンドロステロン

要旨

アルコール摂取時の個々の健康状態はアルコールの吸収や代謝率に影響し、体全体に与えるアルコールの効果と深く関係している。本研究では様々な栄養状態において、白ワインの摂取が視床下部-下垂体-アドレナリン系(HPA)にどのように影響するかを19-22歳の7人男性を対象として検討した。絶食実験として、摂食45分前に135分にわたり40gのアルコールまたはプラセボ飲料を摂取させた。また摂食実験としては食事を摂取した後に40gのアルコールまたはプラセボ飲料を摂取させた。血中アルコール、唾液コルチゾール、唾液デハイドロエピアンドロステロン(DHEAS)レベルを180分の実験時間中45分間隔で測定した。その結果、栄養状態に関係なくアルコールの摂取により唾液コルチゾールレベルが減少した。また絶食状態のときのみアルコール摂取によりDHEASが減少した。これらの結果から、適度の白ワインの摂取はHPA系の機能に何らかの一過性の変化を与えることが示唆された。